

## 草津白根山の2026年2月14日以降の観測結果

- 傾斜観測からは、2月15日以降、湯釜西観測点の変動が反転し、ごく僅かに西上がりの変化を示しています(図1)。
- 震源分布ならびに湯釜火口内およびその周辺の状況に大きな変化は認められません(図2、図3)。湯釜湖面の変色も認められません(図4)。

### 傾斜変動観測

2024年5月に始まった緩やかな変動は、2025年7月頃から変動率が増加するとともに地震活動も高まった。その後、2025年10月から変動が緩やかとなり、2025年11月頃から不明瞭となっていた。2026年2月14日から地震活動が高まり、15日からKSW(湯釜西)の変動が反転してごく僅かに西上がりの変化を示すようになった。同様の挙動は2014年の火山活動活発化の初期にも見られた。

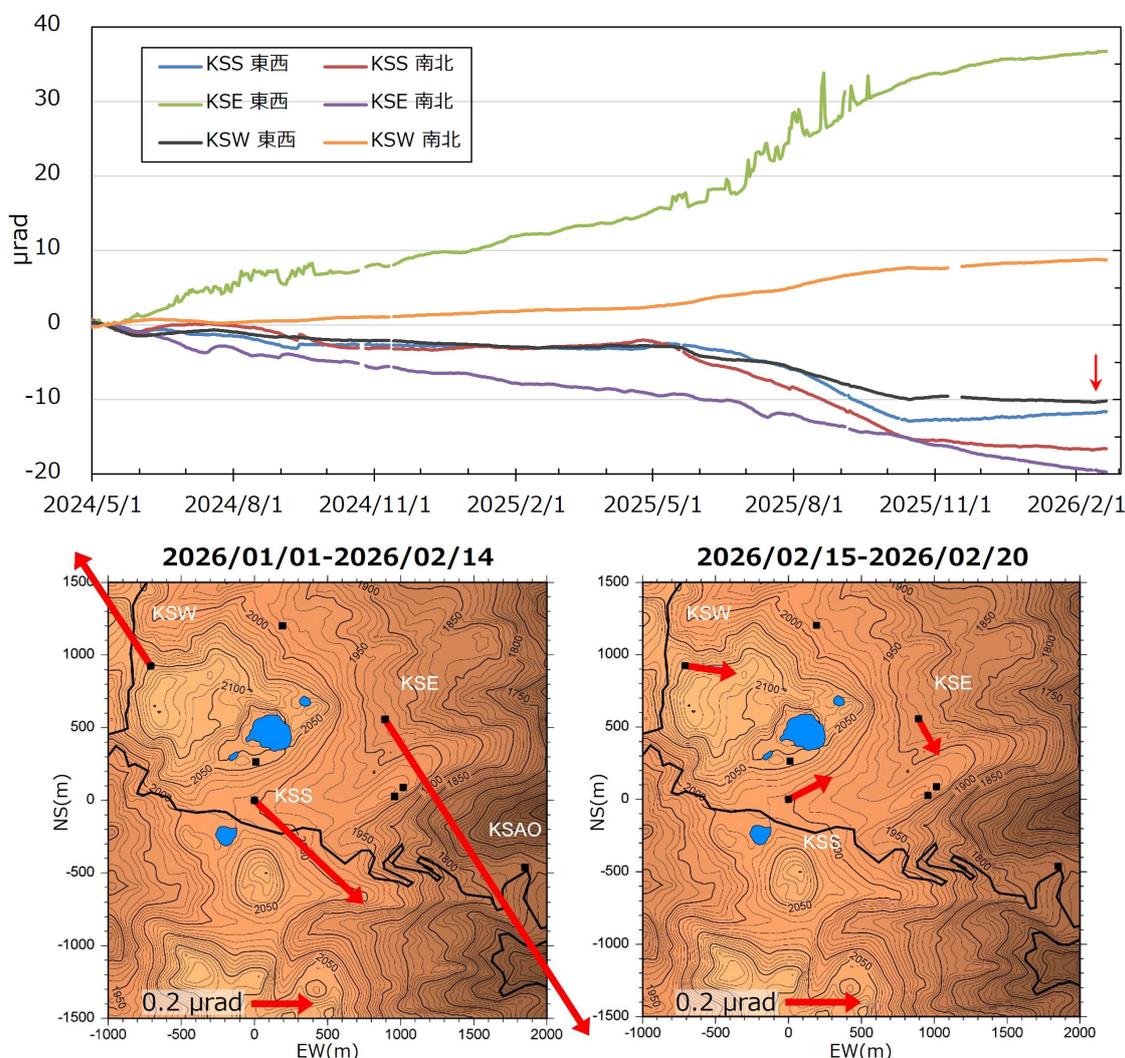


図1：上図：2024年5月1日～2026年2月20日までの傾斜変動。下図：2026年1月1日～2月14日(左)、および2月15日～2月20日(右)の傾斜ベクトル。2月15日以降、KSWの東西・南北成分およびKSSの南北成分が反転している。地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図10mメッシュ(火山標高)」を使用した。

地震観測

2026年2月14日以降の地震活動について震源決定を進めており、速報として2月15日発生分の2個のみ震源位置を示す。震源は、湯釜・水釜境界の海拔600-800m付近に求まり、これらは従来の震源分布域内のやや深い領域に相当する。

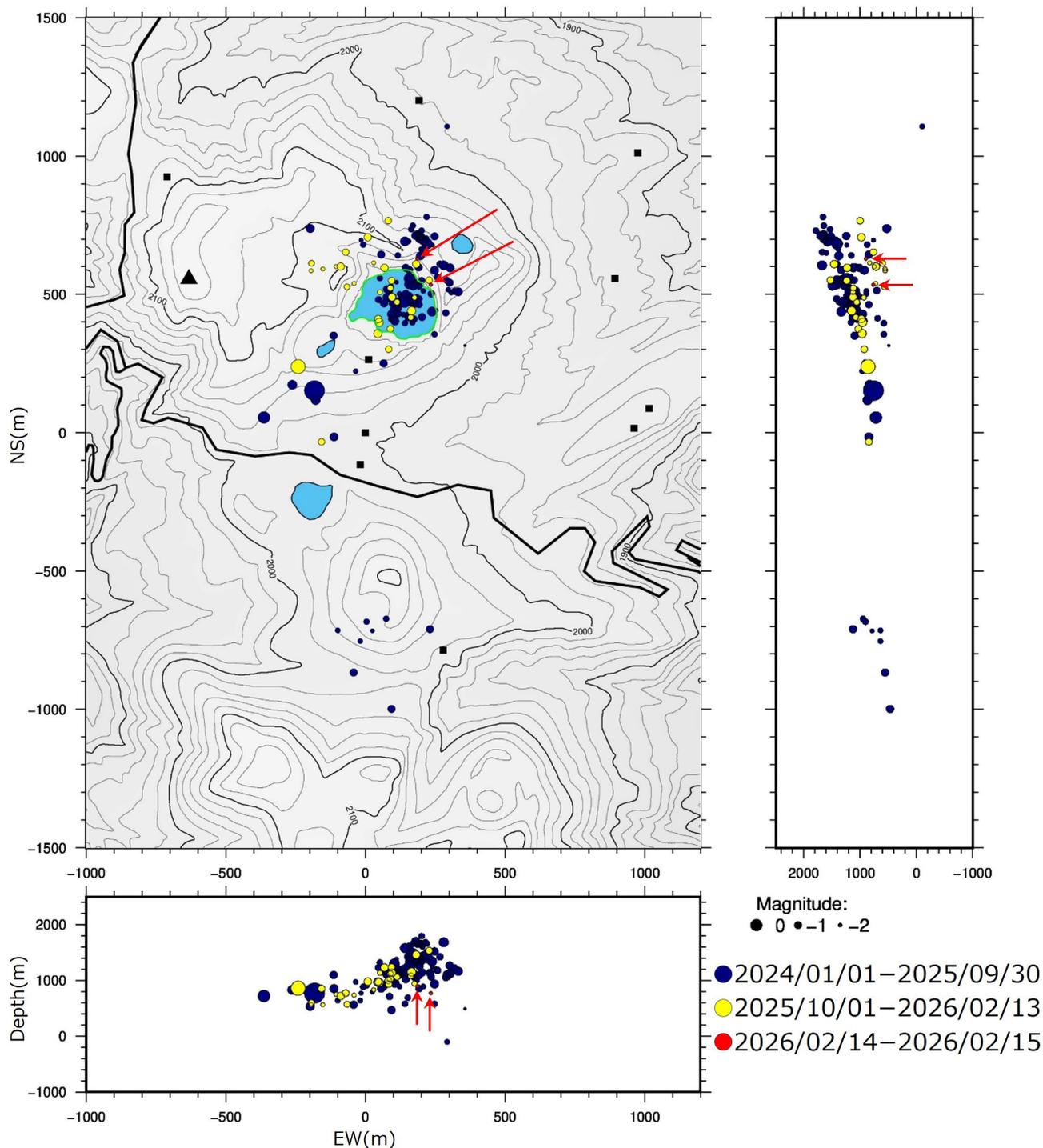


図2：2026年2月15日に観測された地震の震源（●）。マグニチュードはいずれも-2.1。●は2024年1月1日～2025年9月末まで、●は2025年10月1日～2026年2月13日までの震源。

**湯釜火口およびその周辺の状況**

草津白根山に設置した全自動型ドローン（Droneport）を用いて、2026年2月21日薄暮に空撮および赤外線観測を行った。同一の飛行経路で、日照がほぼ同じ条件で実施した2025年11月29日の画像と比べて、大きな変化は認められなかった。

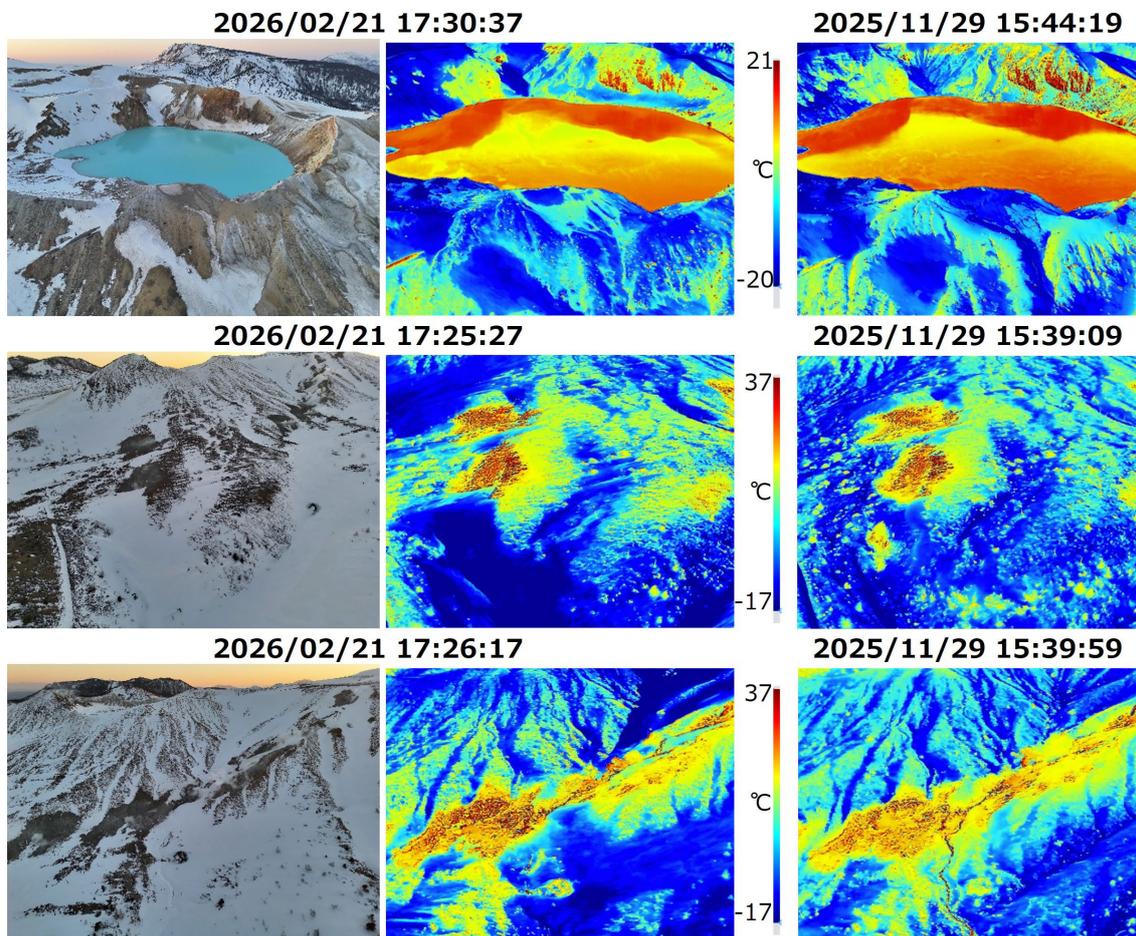


図3：湯釜火口および北側噴気地帯の可視および熱赤外画像（2026年2月21日17時30分頃撮影）。上段：湯釜火口、中段：水釜北東噴気地帯、下段：湯釜北側噴気地帯。右端は、2025年11月29日にほぼ同じ条件で撮影された熱赤外画像。



図4：湯釜火口の空撮（左：2026年2月21日16時30分頃撮影、右：2025年12月11日8時頃撮影）。前回飛行(2025年12月14日)まで観察されていた湖面の黒灰色変色は認められなかった。